

言葉の力

三浦 のの香

が温まる感覚がありました。「先生に充実を祈っていたのに今の生活じゃ恥ずかしいぞ！」と意識も変わりました。今でもついついお昼寝したくなる時には、この魔法の言葉を唱えています。いつも添えられているこの言葉に、私の心は救われました。

遠方に暮らす友人からも、遠く離れていても一緒にこの状況を乗り越えようと歌のメッセージが届きました。

大学三年生。自分なりに実習への心構えを固めるとともに、今年もコースの皆さんからたくさんのことを学びたい、もっと仲良くなりたいと期待に胸を膨らませていました。そんな矢先、全てが新型コロナウイルスの「せい」で奪われてしまいました。バイト先では悲しいことに「コロナ世代なんて呼ばれそう」だともいわれます。しかし、新型コロナウイルスの「おかげ」で気づけたこともありました。オンラインの新しい活用方法や人と会えることのありがたさもそうですが、一番は「言葉の力」だと私は思います。

ずっと家にいるとやることがあってもなくても怠けてしまいがちです。少なくとも私はそうでした。そんなある日、小林比出代先生から頂いたメールの文末にこんなことが書いてありました。

「充実の午後になりますように。」

この言葉を見て、しばらく感じていなかったじんわり心

の状況を乗り越えようと歌のメッセージが届きました。このように、言葉は人をつなぎ、一人を一人では無くす力があることをこのコロナ禍で実感しました。言葉の力で人を救うことは不可能ではない、そう気づけたのは国語科教員を目指す者として大きな収穫です。コロナ世代だからできること。言葉の力を信じ、自分の言葉、相手の言葉を大切にできる人でありたい。だからこそそんな教員になるための残り一年半、無駄にしないよう有り余る時間の使い方を考えていきたいです。

最後に、また以前のようにコースの仲間と笑いあえる毎日が少しでも早く戻ってきますように。

（みうら ののか 信州大学教育学部国語教育コース三年）